

30周年の言葉

横須賀陸上リトルスクール30周年記念誌より抜粋(2003～2012年)

- 横須賀陸上リトルスクール創立30周年、ジュニアスクール創立28周年を祝う
横須賀市陸上競技協会 会長 齋藤 幸次
- 10年後の将来に向けて
横須賀陸上リトルスクール 校長
横須賀陸上ジュニアスクール 校長 馬淵 征男
(前校長、現在は2013年よりスクール顧問)

横須賀陸上リトルスクール創立30周年、 ジュニアスクール創立28周年を祝う

横須賀市陸上競技協会 会長 齋藤 幸次

横須賀陸上リトルスクール創立30周年、ジュニアスクール創立28周年を心からお祝い申し上げます。

私の若い頃、昭和57年、当時の横須賀市陸上競技協会理事長でありました本間慎司先生の勤務校、県立横須賀高校での理事会の席上、リトルスクールの開設が提案され、承認されました。青木良雄、若命勇次郎、本間慎司、進藤正、三澤岑、上村公各氏が中心となり大変ご苦労をされました。リトルスクールの生徒は5、6年生で、2年遅れでジュニアスクールの3、4年生が発足しました。リトルスクール・ジュニアスクール開校当時は、クラブの生徒は多くなかったが、指導されている先生方の熱い努力が、少しずつ成果として出て来て、参加者も増え、生徒数が400名以上を数える程になってまいりました。

スクール生の努力、指導をされている先生方の努力は勿論のことではありますが、スクールの練習会場が不入斗陸上競技場の大会使用時以外は継続的に使用が可能であり、大会等で使用ができない時は、近くの鶴久保小学校、県立横須賀高校そして、近年は横須賀総合高校のご配慮でグラウンドの使用が確保されている事に大変感謝するところです。

一方、スクールの発展とともに生徒数が多くなってくると、今度は指導者の先生方の確保をする事に苦労が今も続いています。参加しているスクール生の保護者の皆様のご協力やスクールの卒業生が今度は指導者として戻って来るという、嬉しい好循環が生まれて来ました。これからも指導者の発掘と研修を深めて充実を図ればと思います。

スクールの発展が順調に推移したもう一つの大きな要素は、教育委員会スポーツ課のスポーツ教室の一環としてのジュニアスクールへの支援が発展の大きな力となりました。これからも、今まで以上に横須賀の中学校、高等学校、一般の方々と連携を図って頂ければと思っています。また、横須賀の中学生、高校生、一般の方々の中にもスクール出身者が多く擁立され、横須賀、神奈川、全国的にも大活躍されています。

横須賀市陸上競技協会として、これからもスポーツ課の支援を頂き底辺の拡大と、リトル・ジュニアスクールの発展を期待しています。ご指導を頂いております先生方に感謝を申し上げ、お礼の言葉といたします。大変おめでとうございます。

10年後の将来に向けて

横須賀陸上リトルスクール 校長

横須賀陸上ジュニアスクール 校長 馬淵 征男
(前校長、現在は2013年よりスクール顧問)

リトルスクール創立30周年、ジュニアスクール28周年の記念の年を迎え、10周年記念誌、20周年記念誌を見ますと創業期の諸先輩のご苦勞が、現在の責任者としてヒシヒシと伝わって、頭の下る思いで一杯です。現在のスクールは、横須賀市陸上競技協会の全面的なバックアップと教育委員会スポーツ課の大きな支援を受け、順調に発展しています。陸上教室として10年毎に登録人数が倍々になっています。神奈川県48クラブチームある中で最大規模になっています。全国を見ても上位の規模になっています。

- | | |
|------------|-------------------------------------------------------------|
| 1982年9月12日 | リトルスクール開校式(不入斗競技場)横須賀市陸上競技協会主催で5、6年生76名 スタッフ16名でスタート |
| 1984年5月12日 | ジュニアスクール開校式(総合体育会館ミーティングルーム)教育委員会主催、陸上競技協会運営で3、4年生79名でのスタート |
| 1992年度 | 10周年リトルスクール生87名、8周年ジュニアスクール生91名の168名で活動 |
| 1993年度 | 陸上クラブの無い中学生の為に受け入れ開始。男子3名 |
| 2002年度 | 20周年リトルスクール生101名(中学22名含)、18周年ジュニアスクール122名の223名で活動 |
| 2012年度 | 30周年リトルスクール生240名(中学生28名含)、28周年ジュニアスクール生252名の492名、スタッフ53名で活動 |

20周年記念誌を見ると、本スクール趣旨(目的)、活動の実績に対して徐々に存在感と評価が出てきたと記してあります。その後の10年、その内容、実績を受け継いで活動してきました。子供達にはまず、体を動かすことが楽しくなろう!他の学校の友達を作ろう!自己新記録を目指そう!続けて練習に来よう!を標語に活動。子供、保護者の修了式の感想文を見ますと、この標語の内容が多く見られて、次の学年への継続率が8割以上になり、中学校の陸上部入部も多く、開校当初の目的、底辺拡大に大きく寄与していると思います。また、今以上に進化する課題としまして、子供達の増加に伴う時間内での運動量の確保と個々の能力アップです。それには、スタッフの増員計画と研修が不可欠です。増員は子供達の保護者にまず呼びかけ、またスクールのOB、OGに呼びかけています。その結果、充分ではありませんが、徐々に増えてきました。個々の能力アップですが、数年間、検討と試行を重ねて3年前よりリトルにグループ別活動を行い、子供達のモチベーション向上に繋がりました。

今後、この30年の伝統をバックに、10年後の将来を見据えて、子供達がスポーツをする喜びを陸上競技を通して学び取ってもらえるよう、研究と研修に励んでいきます。教育委員会スポーツ課と陸上競技協会の皆様に感謝するとともに、今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。